



つばき さだお

椿 貞雄

きくこざろう

《菊子座像》 1922年 油彩・キャンバス 60.8×45.5cm

おかつぱ頭で麻の葉模様の着物を着たこどもは作家の姪の菊子です。着物の細かい模様まで実に丹念に描かれていますね。作家は対象を正確に表現しようとするこのような細密描写にこだわったのでしょうか。でも、細密描写が徹底されるとこのような非現実的な世界が生まれます。この作品を見て岸田劉生の麗子像を思い浮かべる人も多いのではないのでしょうか。作家は岸田劉生を慕っており、麗子像に影響を受けてこの作品の制作を始めました。

1896年 山形に生まれる。

1914年 上京。

1915年 岸田劉生に出会う。

1922年 春陽会創立に参加。

1928年 国画会に参加。

1926年 鎌倉に転居。

1932年 渡欧。

1957年 千葉で没。享年 61。